

# 全国連盟通信

第31期 No.9  
2015年11月19日  
発行責任者  
和食昭夫



新日本スポーツ連盟

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2 大住ビル402

TEL: 03-3986-5401 FAX: 03-3986-5403

Eメール: zenkoku@njsf.net URL http://www.njsf.net

つなごう 支援の輪



## 創立50周年記念事業を終えて

「終わり良ければすべて良し」という言葉があります。私たちの、50周年記念事業のためにある言葉ではないか、と思えてなりません。『スポーツは万人の権利 新日本スポーツ連盟50年の歩み』が刊行されました。そして、掉尾を飾る国際シンポジウムとレセプションに、本当に多くの方々が参加してくださいました。内容的にも豊かで、心温まる集いでした。良いかたちで、終わることができました。お互いに、労を多としたいと思いません。

同時に、湧いてくる感慨は、「終わりは、次への始まり」というものです。

直近の課題としては、第2回評議員会の議論です。そこでは、『スポーツのひろば』の普及と組織の拡大の到達点について、集中的に討論しました。この二つは、スポーツ連盟の組織としての健康度を示すもので、大切なことです。

『ひろば』の普及は、前総会で値下げの措置と2500部達成を決めました。継続して次期総会までに、目標を達成しましょう。組織は微減です。この点も、次期総会までに増に転じるよう、知恵と工夫を發揮して取り組みましょう。

いま、わが国において社会的経済的格差が「スポーツ格差」を拡げつつあります。地球規模では、気候変動や環境破壊などが進行しています。平和に対する脅威も存在します。これらは、スポーツの基盤を崩すものです。より原理的な課題としては、こうした状況とスポーツとの内的構造的関連を解明し、格差や危機を克服するモメントがスポーツのどこにあるのかを、探究することです。

スポーツ連盟に引き寄せて考えれば、創立50年の時点にたって、いま一度「いつでも、どこでも、だれでもスポーツを」の原点を想起し、スポーツ基本法が宣言したスポーツは「すべての人々の権利」の実現をはかる草の根からのスポーツ運動を再創造することです。そのための方法と視点を、連盟50年の豊かな水脈の中から、汲み尽くすことです。

(新日本スポーツ連盟会長・永井 博)



50周年記念レセプションで、FSGT(フランス労働者スポーツ・体操連盟)のエマニュエルさんから記念の楯を受け取る永井会長



フェイスブックで動画配信中  
facebook.com/909787989093667

# 全国から約250名、半世紀の節目を祝う

新日本スポーツ連盟創立50周年記念国際シンポジウム&レセプション

2015年11月7日 東京・北とぴあ



↑フランス代表FSGTの  
エマニュエルさん

## SYMPOSIUM



↑韓国市民連帯の  
チョン・ヨン Chol さん



問題提起をする永井会長



↓質問に答える青沼さん



←50年史の販売

↑フロア発言



12時50分に開会した国際シンポジウムは、「豊かで平和な生活のためにスポーツ運動が求められているもの」というテーマで討論。韓国とフランスの市民スポーツ団体を含め4人の発表の後、熱い議論が交わされました。

FSGT(フランス労働者スポーツ・体操連盟)のエマニュエル・ポネ・ウラルディさんは「スポーツをする権利のためには、たたかい続ける必要がある」と発言。スポーツ文化の遺産を生かすとともに、連帯のグローバル化、人権の尊重に貢献したいという意志を語りました。

韓国体育市民連帯のチョン・ヨン Chol さんは、「スポーツはたった一人の勝者を量産するように機能するが、人権は誰でも勝つように動作する。だから、スポーツと人権の出会い、ギクシャク感がある」とユニークな説明を展開。平和に向けて絶え間

ない前進が必要だと説きました。

スポーツ連盟からは、永井博さん(全国連盟会長)と青沼裕之さん(スポーツ科学研究所事務局長)が、スポーツと権利、基本法や五輪問題などについてプレゼンテーションを行いました。

フリーディスカッションでは、オリンピック・パラリンピック問題を中心に、会場から多くの発言があり盛り上がりました。

参加者からは「とても有意義な時間で、勉強になった」「チョン・ヨン Chol さんの話は、現在我々がスポーツを純粋に楽しめるのも、先人の不屈の精神によって勝ち取ったもので、これもうっかりすると我々の手からこぼれてしまうと感じた」「新しい考え方も必要だが、“いつでも、どこでも、だれでもスポーツを”の精神は常に心に留めておかなければいけない」などの感想がありました。



乾杯



フラダンス↑

## RECEPTION



顕彰↓



↑鏡開き



「思い出コーナー」写真の展示↓



↓文化行事「木遣り」



司会の2人↑



17時30分に始まった記念レセプションには215人が集まり、50年の節目を祝いました。

海外からは、FSGT(フランス労働者スポーツ・体操連盟)のエマニュエル・ポネ・ウラルディさん、韓国体育市民連帯のチョン・ヨンチョルさん、キム・サンボンさんが参加。それぞれ連帯のあいさつを述べました。

スポーツ連盟初代理事長の伊藤高弘さん、2代目理事長の長尾正二さん、北海道連盟事務局長の前川由香さん、大阪府連盟事務局長の関戸弘充さんの4

人で鏡開きを行い、乾杯。文化行事として、一般社団法人江戸消防記念会第三区四番組による「木遣り」が披露されました。

今回、50周年記念事業として「顕彰」が行われ、スポーツ連盟の基礎を築いた個人114人と30年以上加盟している126クラブが表彰されました。

また、フラダンス、浪花しぐれ「桂春団治」、ハーモニカ演奏、江州音頭などの友情出演もあり、会場はにぎやかな雰囲気の中で懐かしい話に花が咲いていました。

# 第32回全国総会（<sup>2016年</sup>3月12～13日）にむけて

第31期第2回評議員会・第7回理事会を終えて

今回の理事会、評議員会（11月7～8日）は、創立50周年記念国際シンポジウムとレセプションと並行して行われ、短時間ではありましたが、第32回全国総会を見通した当面の課題と全国総会の基本構想について討論を行いました。若干の感想を述べたいと思います。

総会までの課題の第1は「スポーツのひろば」の普及です。目標の2500部まであと170部のところに到達しています。評議員会では、評議員の自発的な提起にもとづき、各連盟組織が「自主目標の達成」あるいは「10%の増」を目標とし、総会までにやり抜くことを決めました。前総会の重要な決定事項でもあり、知恵と力を尽くそうではありませんか。

第2は、連盟組織の拡大強化です。この間の組織調査によれば「減少傾向」です。スポーツ活動の実態や変化を含め課題の分析といまから総会までにできることを明確にし、「増勢」への最大限の努力を行いましょう。

次に、第32回総会それ自体の目標や準備です。50周年記念の7大事業は、確かな成果を上げて取り組まれました。そして、どんなときでも、「国民のスポーツ要求に誠実にこたえる」スポーツ連盟の努力が50年を支えてきたことを共通の確信にすることができました。

2011年のスポーツ基本法の施行は、「スポーツは万人の権利」、「スポーツ 国民が主人公」の時代のよりどころと新たな出発点を示すものです。それを現実のものとするためにスポーツ連盟は、今後何をすべきか、子どもたちや青年、女性、障害者、国民各層の人々、アスリートなど、誰もが相互に尊重し合い、フェアで多様なスポーツ活動を楽しめるようにするため、スポーツ連盟は、何を伸ばし、何を变えるか。新たな歴史の始まりと道筋を語り合う総会にするために、みなさんの提案と意見をお寄せください。

（全国連盟理事長・和食昭夫）

## 第31期第2回評議員会・第7回理事会の内容報告

第31期第2回評議員会は11月8日、東京都板橋区の東板橋体育館第一会議室で、第7回理事会は11月7日、8日の2日間で開催されました。

出席は評議員34名、オブザーバー参加5名で理事会参加は37名でした。

今回の評議員会と理事会では、「創立50周年を運動と組織の前進の中で迎えよう」と取り組んできた「ひろば誌の普及2500部に向けて」と「組織拡大の総括」を主議題として報告討論が行われました。以下、抜粋報告します。

### ◆「スポーツのひろば」誌の普及

現在2330部で目標の2500部に未達。様々な報告と意見・提案の発言があり、自主目標を尊重しながら10%増を目指すことを拍手で確認した。

### ◆組織拡大

今年10月に調査依頼した現勢では、広島県連盟が今年設立され301名が加わったが、全体としては358

名の減となった。前向きな発言が多かったが、消滅しそうな組織もあり、現状をもう少し分析する必要がある。

### ◆第31回全国スポーツ祭典

実行委員会の報告、スローガンについては、別紙の祭典ニュースを参照ください。

### ◆第32期機構・役員検討

機構・役員検討委員会より、役員の若返りなどの中間報告と「共同代表制」の新たな提案が討論され、今後整理し12月の理事会で確認することになった。

### ◆「安全保障法制」の廃止をめざす新たな取り組み

別紙、「安全保障法制」の廃止をめざす新たな取り組みを進めること、戦争法の廃止を求める統一署名を各組織・種目・クラブで取り組むことを確認した。

### ◆その他

第32回定期全国総会の構想についての意見交換と連盟創立50年史の普及について報告された。

（全国連盟事務局長・福島邦夫）